

◆BLOG

注目されていた日銀の政策決定会合と、FRBの連邦公開市場委員会（FOMC）が終わった。ひと
言で言うと、日銀は「支離滅裂」で、
FRB
は「ヤルヤル詐欺」だ。

まず、日銀だが、結局、総括するというのは見せかけで、いままで通り「緩和」続行となっ
た。2%の物価目標も続行である。しかし、そのために10年物国債金利がゼロ%になるようにも
っと買い入れるというのだから、よくわからない。金利ゼロ、マイナス金利を続けて、どうし
て物価が
2%も上昇するのだろうか？
説明してほしい。 まったく「支離滅裂」だ。

次にFRB。こちらは、利上げがないことは、大方が予想していた。で、その通り見送った。
しかし、毎回「利上げをするかもしれない」とし、これまで何度見送っただろうか？
これでは「ヤルヤル詐欺」としか思えない。ドルは基軸通貨なのだから、ちゃんと金利を付け
なければ、世界経済は回らない。

■資本主義の終焉を唱えるバカ人間たち

メディアには、専門家と称する人々の予想が溢れている。エコノミスト、アナリストと言わ
れる人から経済学者、投資家まで、やれ、経済はどうなる、相場はどうなると、やっている。
もっともかっこよく見えるのは「資本主義は行き詰まっている」と資本主義の終焉を唱える人
間たちだ。

新自由主義がどうのこうの、アベノミクスはまだ途上、日本国は破綻しない、デフレ脱却は
難しいなど、みな勝手なことを言いまくっている。

しかし、確かなのは、世界経済は成長エンジンを失っていて低成長に陥っていること。そのなかで、日本経済は衰退を続けていて、この先も復活などないことだ。

最近、毎年9月になると、2001年の9.11テロ後の暴落と、2008年のリーマンショック後の暴落のことをよく思い出す。

9

.11

のとき

NY

ダウは

8000

ドルまで下げ、同じくリーマン後も

8000

ドルまで下げた。しかし、その後は市場最高値を更新している。

カネを刷れば、見せかけで株価は上げられるのだ。

■世界中が集まってカネを刷る相談を

アメリカのFRBは、緩和を縮小した。しかし、欧州ECBと日銀はまだ続けている。ようするに、
21世紀は、中央銀行がカネを刷りまくる時代になった。

そして、潰れそうな金融機関、大会社は政府が税金で助ける。世界中でこれをやってきた。

これがいまの資本主義なのだから、どうして終焉してしまうのか、教えて欲しい。こういう資本主義は終わるわけがない。税金をつぎ込むのだから、終わりようがないだろう。

世界では、G7とかG20とか、あるいは中央銀行・蔵相会議などを行っているが、すべてがどうカネを刷って、なんとかしようという相談だ。

だから、真剣な経済対策など出てこない。

■ヒトは幸せになるためにカネを使う

ただ、この先も同じことが続くどうかはわからない。こんな資本主義が続くと、すべてが麻痺し出す。だから、エコノミストたちは毎回、「市場はさらなる緩和を求めている」と言い続ける。いったい、彼らが言う市場とはなにか？教えてほしい。

経済、景気が上向くのは、需要が増えて供給が追いつかなるときだ。需要とは消費だ。人は単にモノが欲しいのではなく、幸せになるために消費する。つまり、カネを使う。

それなのに、政府はカネをばらまいて買いたくもないモノを買わせようとする。政府は余計なことをすべきではない。これでは、景気はよくなならないばかりか、さらに落ち込むだろう。政府が経済に介入すればするほど、おかしくなる。

■なぜ誰も社会主義を「止めろ」と言わないのか

それにしても、日本の市場は本当に異次元になってしまった。通貨発行量は増え続け、それが日銀にブタ積みされている。日銀をはじめGPIFなどの公的資金（クジラ）が、株を買って株価を支え、日銀の大量ETF買いで日本の有力企業は事実上、国営企業になってしまった。

もともと日本は社会主義国家なのだから驚くに当たらないが、この状況を誰も、「おかしいから止めろ」とは言わない。この状況で、株価予想や為替予想がなにか意義があるだろうか？

クジラが買えば上がるのだ。ただ、クジラの資金がなくなることもある。

■世界に石油もカネも有り余っている

そう言えば、商品相場は下げている。石油も下がっている。当たり前だ、需要に比べて供給があり余っている。カザフスタンやナイジェリアがどんどん生産している。石油価格の下落の影響をもろに受けて、ベネズエラはとうとう国家崩壊してしまった。

そう言えば、9月の初めの日経新聞に、米エネルギー市場調査会社ストラテジック・エナジー・アンド・エコノミック・リサーチの社長、マイケル・リンチ氏のインタビュー記事が載っていた。この記事で、リンチ氏は「原油生産は頭打ちになる」と言い、これまでの「ピークオイル論」は無効だと言っていた。

石油は有り余っている。そして、カネも刷すぎて有り余っている。この状況はまだまだ続くだろう。これが、いまのリアルな世界だ。